

あまでうす

『半沢直樹さまさま』

ドラマ『半沢直樹』は、2013年放送からのファンで、今回も毎回欠かさず観ていた。

あのドラマの中で、名セリフが次々と話題になった。

半沢直樹は、「大事なものは、感謝と恩返しだ」と言えば、大和田取締役は負けじと、「ほどこされたら、ほどこし返す」と、こどもまでもが真似をするという人気振りであった。

また劇中に登場した、半沢が腕にしていた時計や、森山がはめていた腕時計、使っていた万年筆も話題となった。

半沢の腕時計は、セイコープレザージュ角型で自動巻。そして、ホーロー

製の白文字板であった。値段は12万円。森山の腕時計は、これもセイコープレザージュ丸型で自動巻。それと万年筆は、Montbl Meisterstück万年筆で吸入式。値段は13万円。

これがドラマ後に注文が殺到し、万年筆に至っては手作りのため、生産が追い付かないという。ちなみに、瀬名社長が腕にしていた時計は、これもセイコープロスペックスダイバー。黒文字板のクォーツだった。

なぜ腕時計ばかりを並べたかという点、現役時代は、腕時計をはじめ、置時計、掛時計、ホールクロック、ウエストミンスターなどを修理していたこともあり、やはり目についた。

現在は、その修理技術を何とか活かし、アンディ・ウオーホルが好きなこともあって、ポップアートなオリジナルの腕時計や

置時計、掛時計などを作っており、あちこちで展示会も開催している。

『半沢直樹』を観ているとき、あることが閃いた。それは以前に開募した小説である。応募の条件が、400字詰め原稿用紙8枚までという制限があり、『彼は異次元空間を彷徨い、弥勒に何を得たのか?』という、パラレルワールドな小説を書いてみた。

ところが、書いていくうちに9枚になり、問い合わせて8枚以内にしてほしいとのことで、削除して8枚で出した。正直言って、細かな描写が書けずにストーリーが中途半端な感じで終わってしまった。心残りでもあった。

この時に気づいたが、エッセイは枚数を限られても書けるが、小説は枚数を限られると、思い通りに書けないと、今更な

がら知った次第である。

今回のドラマを観ていると、閃き、小説をリメイクすることを思いついた。今までに書いた小説は、話の筋道を経て順序よく進んでいくのに対し、リメイク版は、話の結論を先に書き、なぜこうなったかをプレイバックする方法をとった。半沢直樹のドラマでは、こう

いった場面が何度も登場する。そしてタイトルも少し短くし、『彼は異次元に迷い、弥勒に何を得たのか?』とし、最後のページでその結論に至っている。今回もいつものように推敲を繰り返し書き上げてみると、原稿用紙に換算して、15枚に相当する。

ストーリーは根本的には変わっていないが、細かな描写を書き足し、補筆修正し、登場人物も一部変更している。どちらかというと、今までに書いた、あやかしの小説に近くなった感じだ。

そこで、前に渡した短縮版を読んでもらった友達に、リメイク版を3人に読んでもらい、それぞれの感想を聞いた。

すると、細かな描写や経緯がよくわかった。そして、あやかし色が濃くなったということだ。やはり、小説はどう書いても「あやかし」から抜け出せない……。

「小説の主脳は人情なり、世態風俗これに次ぐ」：なかなか難かしそうである。

風地蔵新聞

第206号

岩瀬桃谷 編集
白石美帆 発行
〒503-0922 岐阜県大垣市馬場町85
感想・俳句・お歌など
ご感想・俳句・お歌など
短待り

大切な家族

大橋 美紀

我が家には度々登場している8才になる愛犬「陸」と「空」が居ます。

8年前の出会いから今回は書いてみようと思いましたが、私は小さい頃から、家に犬や猫が居るのが当たり前の環境でした。しかし結婚して、初めに住んだのがアパートの社宅。とてもペットなんて飼えなくて子どもも産まれ、小学校に入る前に家を建てたのですが、その頃は子どもが少年団にクラブチームに部活と、

家を空けることが多い、子どもたちは欲しいと何度もねだられたのですが、「居ないことが多いから可哀想でしょ」と言い聞かせていました。それから15年の月日が経ち、学校も卒業し、子どもにも振り回されることもなくなり「今だ」のタイミングで、ペットショップに行きました。そこは直接ブリーダーさんから犬や猫を買い付けているところ。私が欲しかった犬は、その時ブルムだった。お店の方にその事を伝えると、先日産まれた子どもが居るからもう少し待って欲しいと言

われましました。2ヶ月間連絡を待っていました。待ちに待って連絡が来ました。主人と見に行くとなんと兄弟で2匹ゲージの中に入っていました。1匹は元気に飛び跳ねていて1匹は、ジーンとうるうるの目をして見つめてくるのです。「どっちの子にする?」とお店の方に聞かれ、返事することも出来ず悩んで悩んで返事は持ち帰りませんでした。2・3日悩んで、出した答えは、2匹とも連れて帰ることにしました。あの姿を見てしまった私は、兄弟を離す事も出来ないと思う

その日から我が家は、しつけ戦争が始まりました。「空」は股関節が悪くうしろ足を交互にスキップをする様に歩きます。過保護にしすぎて8年経った今でも「お座り」と「待て」しか出来ません(笑)生後3ヶ月から、外でのお散歩が毎朝の日課となりました。愛犬のおかげで見えなかつた景色を見る事が出来たり、めぐり会えなかつた人にも会うことが出来たり、そして何と云っても癒やしを与えてくれます。私が少いときは、そっと傍に

2ヶ月に一度の検査も欠かせなくなっています。この先どれだけ生きていくかわからないのが、分かります。最後の最後まで私は、過保護でありたいと思っています。これからは、早くお散歩が辛い日もありません。散歩が大好きです。そんな愛犬たちのお散歩は私も大好きです。私を笑顔にしてくれる2匹の愛犬。改めて思います。「私の所に来てくれ……」

お便りします

競つて季節かな秋風... 地蔵新聞が活躍を風... 拝見して頭が下がります... 体に気をつけてお過ごしください... (筑紫野市 松尾さん)

集いの感じ仲間との... 風地蔵には沢山いらつ... しゃるんだなあ。と... じもあたたかみを感じ... (Kさん)

ちよつと立ち話

クお友達とパールッ... 年九州に行つた時に、... 北九州の掘切先生に... 博九州の開催された旅

したての展示会をみない... 新人聞かみさん、... 人ななみさん、... いまおだつてかいて... このまゝでも覚えて... のまゝでも覚えて... のまゝでも覚えて...

お客様に聴いて頂き... お客さまに聴いて頂き... ありがとうございます。... 次回も限定の本やポ... (鎌澤)

ナシの中は、お楽しみ... 色々と催しがあり、... が開催されたのも、... トが野さんのコンサート... 中野さんのコンサート... 中野さんのコンサート...

久しぶりの遠出

鎌澤 宣子

11月3日安城歴史... 博物館にて「江戸の... 遊び絵」展を観に行... てきました... お客様より開催して...

いたけど道がすいて... きました！... ついた途端... 「腹減った！」と息... 子「まだ混まないよねと...

ングして美味しいコー... ヒーを飲んでお腹も... 落ち着いたので、さ... あ観にいこうと博物... 館の方に行きました...

途中影絵の手遊びが... できるところがあ... 解説の絵を見ながら... 不器用な手で形を作... ている息子を見なが...

から教えていただき... た場所です。庭園で... 色とりどりの花や木... がありいます。... 祝日なのとちようど... 昼時だったのでお弁...

おわり

言えなかった
「ありがとう」

遠藤 暁美

初めて夫を連れて来た時、母は「あんな人しかおらんのか？」と嘆いた。言われるまでもなく、私が一番そう思っているのよ、お母さん。八歳も年上のおじさんだし、結核患って高校を出るのに六年もかかったし、地位とか名誉とかお金とかには全く無縁だし、低身長、短足、首なし、ずんぐりむっくりを絵に描いたような容貌だし。そもそもそんな外観的なことより、私とは趣味も生き方もかけ離れているのがひっかかってきた。
文学少女を気取っていた私は、ドストエフスキーとか、チャイコフスキーとかの話しかできないし。
彼が初めて私を見たのは保育園の園庭だったそう。子どもたちが鬼ごっこをしながら、中にちよつと大きめの子がいるな、と思ったらそれが私で、どの子よりも元気で、楽しそうにキラキラ輝いていて、いいなあと思つた、などと言われたら無視できないではないか。私は嫁のもらい手があるのかと、周囲が心配する程、不器量だったが、子どもたちがかわいくて、仕事は楽しくて

仕方なかったもので、仕事の中の私がいいと言ってもらえて正直、心がゆれた。
そのうち、あれ程反対していた母が賛成に回ってしまったのだ。彼は若い娘には見向きもされないが、年寄り子どもにももてる男だった。弱者に対するやさしさ、不利な条件の中で「傷に玉」のようになつて光っていた。そしてその玉は、死ぬまで光り続けることになる。
迷いながらの結婚だったが、答えはすぐに出た。父亡き後、頼りない母を支えて片肘張って生きていた私がふつと生きやすくなつた。夫はトマトを切つて並べただけでも「あけみは料理が上手だね」と言うような人だったし、誰かに依存しない生きられないの、に我がままな私の母ともうまくやってくれ、いつもニコニコしていた。相変わらずお金には無縁だったが、プロポーズのことばが「物質的な豊かさが幸せと思わないか、でも、一生大事にする。」だったので、不満はなかった。私は夫に支えられながら、子どもを育てながら仕事を続けたい、母を看取り、やりたいことをする、やることができた。感謝しかない。
子どもたちが進学のため家を離れ、二人だけの生活になつて四年目の秋、夫に肺癌が見つかった。夫には癌であること

は告げたが、もう末期で手術できないこと、もつて余命三ヶ月だという事は言えなかった。なのにその夜、「今までありがとう。おかげでいい人生だった」と微笑みながら言われたのだ。いやいや、「ありがとう」といわなくてはいられないのは私の方だ。でも言えるわけがない、死を認めることになる。思えば夫は、小さなことにでも「ありがとう」といえる人だったのに、私は逆に照れがあつて、素直に口に出せなかった。この時ほど後悔したことはない。
告知から二ヶ月半。
夫は旅だった。わたしがようやく「ありがとう」と言えたのはお棺が閉じられる直前だった。
あれから十九年、もうすぐ命日が来る。私はこの歳になつても相変わらずインテリに憧れを抱いている。でも、もしも生まれ変わっても理想とは真逆の彼と一緒に待っていてくれると思うと、自分が死ぬことは怖いと思わなくなつた。おばあさんになつた私をちゃんと見つけてくれるだろうか。あえたらまっさきに「ありがとう！」と言わなくては。

仕事とは何か？

毎日、毎日、仕事。一年中仕事。
当たり前なんだけど、毎日仕事をしている。
現場が終わり、家に帰ってから仕事。土日祭日も仕事。

見積もり、図面、設計、経理。寝るまで仕事。
毎日何かしらの仕事の依頼の電話なり連絡がある。
今年もご新規「100軒」越えた。有り難い、感謝。

独立1年目裸一貫。もちろん独り。
独立して17年。メンバーも七人。みんなが助けてくれる。

どこかの誰かが依頼していただいて、初めて「仕事」となる。
仕事とは何なのか？金を稼ぐ手段だけではない。

上手に植木を切れば良いってものではない。
綺麗な庭を作れば良いってものではない。

仕事とは何か？「親切である」

庭師 奥田良樹